

オオトガリスキンウミノミ

Oxycephalus clausi

横山謙二

オオトガリスキンウミノミは、トガリスキンウミノミ科アフセトガリスキン属 *Oxycephalus* に分類されます。本会報P9-10で述べたように本属は、頭部が短いこと、胸肢IとIIに鋏脚 (Chelae) であること、胸節と底節板 (Coxal plates) が癒着していることなどから、他属と区別できます。本属は本種を含め、*O. piscator*、*O. latirostris*、*O. longipes* の4種に分類されています。

本種の同属他種との大きな形質的違いは、下記の2点です。

1. 第1胸肢の前端遠位角が鋭く尖り、わずかに伸長していること
2. 腹節側板の遠位縁中央部と下後角に2つの歯状突起を有すること

特に、2の腹節側板の遠位縁中央部の歯状突起は、同科他属他種でも見られないため、同定の近道となります。ただ雄の場合、この歯状突起は小さく、短いので見落としてしまう恐れがあります。

雄雌の違いは、頭部が雌は卵形で、シャープな頭の雄とは形状が異なります。また第2触角は雌では退化していますが、雄では頭部の下に折りたたまれています。

本種の大きさは、雌で最大 38mm、雄で最大 27mm になります。

本種は熱帯海域に分布し、駿河湾での記録として、三保海岸に漂着した記録 (久保田ほか, 2009) やプランクトンネットによる採集記録があります (森ほか, 2010)。筆者による2025~2026年冬春季の三保真崎海岸の漂着物調査では、1~4月に漂着が確認され、特に3月中旬に1日で20~30個体のまとまった漂着を記録しています。



図1. オオトガリスキンウミノミ♂泳ぐ姿



図2. 漂着したばかりのオオトガリスキンウミノミ♂

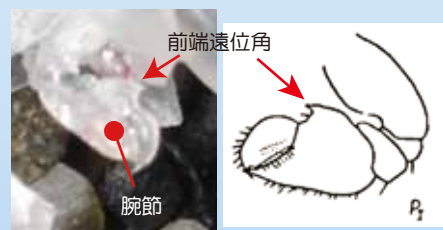


図3. 胸肢Iの鋏脚。左のスケッチは Vinogradov et al. (1996) から引用。



図4. 腹部。PI: 腹節、Ep: 節側板、赤矢印: 歯状突起



図5. オオトガリスキンウミノミの雄雌。赤矢印: 腹節側板の歯状突起位置。